

令和５年度 福島区区政会議(第２回全体会議)でいただいたご意見と対応方針一覧（令和５年11月７日開催分）

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容（令和５年11月７日開催分）	回答課	令和６年５月時点の対応方針
1	森委員 (地域活動協議会 (海老江東))	運営方針素案は３月末に向けて確定版を作成するとのことであるが、この区政会議で意見を収集した後、次の会議は設けられるのか。初見ですべての意見を出すのでは難しい。地域の代表として来ているので、地域の皆様の意見も聞きたいと思っている。 意見を出しやすいよう、策定スケジュールを検討してほしい。	令和６年度運営方針（素案）に対するご意見については、本日の会議においていただきたいと考えており、改めてご意見をいただくことは予定していない。運営方針や予算については今後、大阪市役所内で調整後、２月に議案として市会に提出し、議論いただくことになる。その後３月末ごろに内容を確定する予定である。 区政に関するご要望等については９月に開催した部会においても委員の方々にご意見を伺っているが、委員の改選で、今回から委員になられた方には初めてこの会議でご意見をいただくことになる。令和６年度の運営方針の策定についてはこの場でいただいたご意見を可能な範囲で反映させていただきたい。先の話になり恐縮であるが、令和７年度の運営方針等の策定については、より早い時期からご意見をいただくようにするなど今後検討していきたい。	企画総務課 (企画推進)	令和７年度の運営方針については、区政会議の部会や全体会議においてご意見をいただき、適宜反映し策定させていただきます。
2	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	新規事業である要援護者対策用防災備蓄物資購入とは、具体的にどのような物資を購入するのか。購入したものをどういうふうに備蓄するのかお聞きたい。	備蓄物資は、13か所の避難所や区役所に設置する予定である。購入予定の物資は、バッテリーやソーラー式ランタン、トイレの設置も強化していきたいと考えている。そういったものの購入に1,000万円ぐらいと考えている。各避難所等には既にガス発電機が設置されているが、屋外での使用に限定される。要援護者には人工呼吸器や加湿器などが必要な場合があり、室内でも電気が必要である。そのため、各避難所にバッテリーなどを設置したいと考えている。	市民協働課 (市民協働)	要援護者の方を含むすべての避難者を対象に安全安心を確保するための物資として、次の5つの品目について災害時避難所及び区役所、福祉避難所に配備することとし、事業の名称を「防災備蓄物資の拡充（要配慮者対策含む）」に変更します。 ①ポータブル電源（1000Wh、ソーラーパネル付） ②マルチパネル式LEDランタン ③水電池 ④災害時用携帯トイレ ⑤災害時用羊羹 ただし、④災害時用携帯トイレにつきましては、能登半島地震を受けて、大阪市全体として避難者数に必要な携帯トイレを購入することが令和６年５月に市会において決定しましたので、区での購入は見送ります。

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容（令和５年11月７日開催分）	回答課	令和６年５月時点の対応方針
3	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	新規事業である不登校児童生徒の居場所づくり事業とはどのようなものか具体的な内容を教えてほしい。	不登校の子どもは全国的と同様、大阪市でも増えており、福島区も同じ状況である。その中には学校には来ることができるが、教室に入ることができないといった子どもがいる。そういった子どもたちが学校で安心して過ごせるように、学校内の空き教室を活用し、他の人からの視線が気にならないようにするためのパーテーションや床に座って落ち着けるようなフロアマット、一人で勉強したり本を読んだりするための机などを購入し、学校に設置していきたいと考えている。	保健福祉課 (子育て教育)	
4	浅香委員 (地域活動協議会 (玉川))	防犯カメラや防犯灯を設置するとのことだが、どれくらいの規模で設置するのか。防犯カメラは値段が高いと思うが、この予算で足りるのか。	防犯カメラについては、１年で各連合に１箇所設置している。毎年各連合に更新も含めて、設置場所を照会して決定している。また、防犯灯は大阪市で設置して、その後は地域で維持管理をしてもらっている。	市民協働課 (市民協働)	防犯カメラについては、これまでの取り組みにより、必要な箇所への設置（区内約200台）はほぼ完了しており、近年は、主に節電効果の高い機種やWi-Fi搭載により遠隔で映像が確認できる機種への更新が主となっています。街路防犯灯（LED防犯灯）については、毎年度必要な地域より申請を受け付け、建設局と調整の上設置しています。なお、大阪市全体において、稼働していない防犯カメラに対し、2025大阪・関西万博に向けて地域への補助金により更新します。
5	森委員 (地域活動協議会 (海老江東))	要援護者対策について、区役所では要援護者の人数やすべての地域にいるかどうかということ把握しているのか。また、地域にいる要援護者の人数に応じて各避難所に物資が備蓄されるように考えているのか。その他、備蓄物資は何年かしたら交換が必要になるので、一気に購入するのではなく、予算額も考慮して３年ごとにローテーションするなど、計画的に購入すればいいのではないのか。	今回予定している物資は早急に装備する必要があるため、各避難所に設置したいと考えており、現時点では各地域の状況に応じて配置数を変えることは考えていない。また、区内の要援護者の人数であるが、要介護３以上の方は二千数百名、要介護５の方は500名くらいいらっしゃる。いつ地震が起こるかわからない状況で地域の優先度を決めることになるため、ローテーションでの購入は困難と考える。	市民協働課 (市民協働)	要援護者は区内すべての地域に2,200名以上おられます。各避難所ごとの要援護者数は想定できていませんが、備蓄物資は要援護者をはじめとしてすべての避難者にも安心して避難生活を送ってもらうためであることから各避難所等へ一律配置とします。 令和６年度は寄附金を活用して、備蓄物資を拡充することとしました。今後も災害時における課題を把握・想定し、備蓄物資の購入を進めてまいります。

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容（令和５年11月７日開催分）	回答課	令和６年５月時点の対応方針
6	岡田委員 (地域活動協議会 (福島))	経営課題２の「安全安心なまちづくり」に記載されている小中学生の防災意識の向上や中学生体験学習事業はどんどんやってほしい。また、経営課題４の「みんなの相談室」の対象は老人だけではなく、地域住民が対象と聞いている。先日実施したふれあいまつりで保健師が話をしてくれたことがあり、小さな小学生が熱心に聞いている姿を見た。学校でも授業の一環として保健師に話してもらうことを取り入れてほしい。		保健福祉課 (保健活動)	学校で授業の一環として保健師からの話を取り入れてほしいというご意見につきましては、骨粗しょう症（子どものときからの骨づくり）など保健師の出前講座等を小・中学校校長会にて、周知させていただきました。今後、ご要望をいただきましたら対応させていただきます。 また、地域の方にも周知させていただいておりますので、ご依頼をいただきましたら、同様に講話内容のご相談をしつつ、実施させていただきます。
7	村井委員 (地域活動協議会 (野田))	地域の小学校、中学校が災害時の避難場所に指定されているが、地域住民が押し寄せれば収容人員はオーバーすると思われる。そうなると、公園に避難せざるを得ない人もでてくるかもしれないので、公園のベンチをコンロに転用できる仕様にするとか、公園の倉庫に簡易テントを置くなど、避難所に収容できない人の安全確保を具体的に考えてほしい。また、民間の高層の建物について、どこが災害時に避難できるかは周知されているが、どうやって建物に入るのか、という方法についても住民に広報してほしい。		市民協働課 (市民協働)	ご指摘の避難先での生活について、現在は、住宅の耐震化も進んでいるため、災害が発生した際でも自宅が安全であれば、自宅や親類・知人宅への分散避難を勧める広報をしています。ただし、在宅避難ができない、身寄りがいないなどの場合は災害時避難所へ避難していただくことになります。一方で、地域の公園は一時避難場所であり、公園での長期のテント生活は非常に厳しいと考えますので、区内13か所の避難所の状況を把握し、適宜、比較的空いている避難所への誘導や情報提供を行います。 津波避難ビルの利用については、今年度実施される予定の地域の防災訓練や防災リーダーの研修等で説明してまいります。
その他いただいたご意見					
8	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	万博の機運の盛り上げについては区役所ではなく、国や府、大阪市がやるべきものである。区はこの予算で外の事業をやってほしい。			
9	中村委員 (地域活動協議会 (上福島))	JR福島駅前の交番がなくなってしまい、その後交番を新たに建てる予定がないと福島警察署から聞いた。JR福島駅前近辺は人通りも多く、客引きも増えているため、交番がなくなると治安が悪くなる、と地域の多くの方が不安に思っている。候補となる敷地がないという話だが、探せば場所はある。区役所の権限では難しいかもしれないが、ぜひ交番の設置をお願いしたい。			
10	谷口委員 (学識経験者等)	広報ふくしま11月号の8ページに掲載されている「施設情報」の「災害ボランティアセンター運営ボランティア養成講座」は災害の後にこういった行動をとるべきかということを学ぶ大変よい機会になる。ぜひみなさんにも参加いただきたい。			